

# 全国・県学習状況調査における生徒の結果分析（1年）

## 今年度の分析

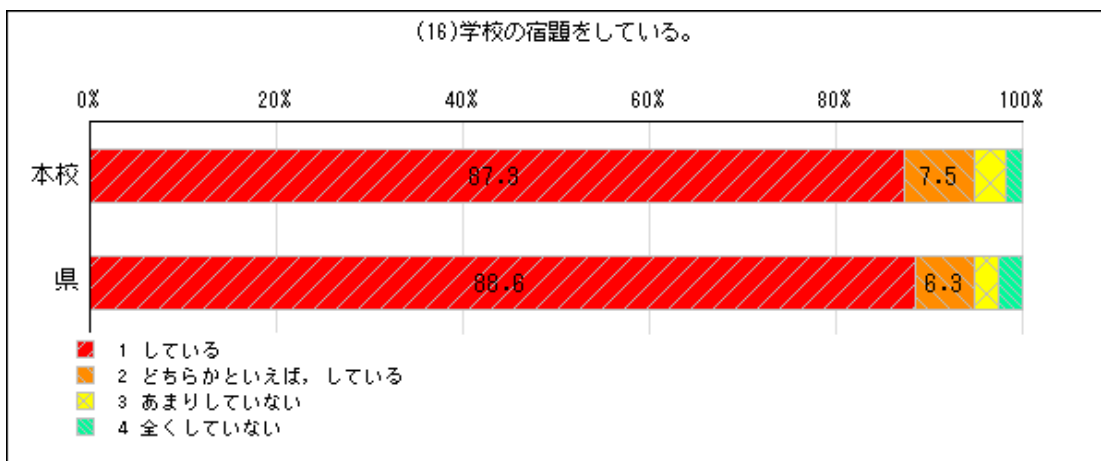
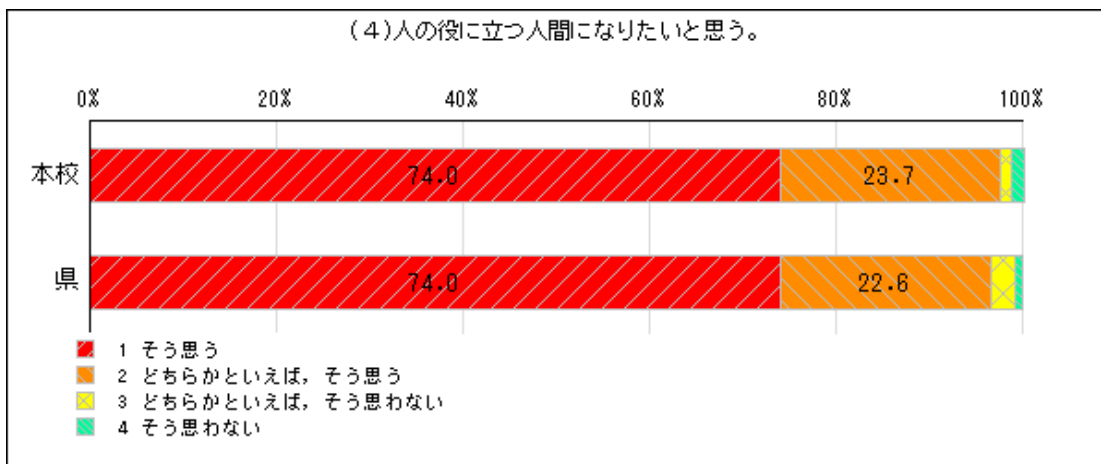
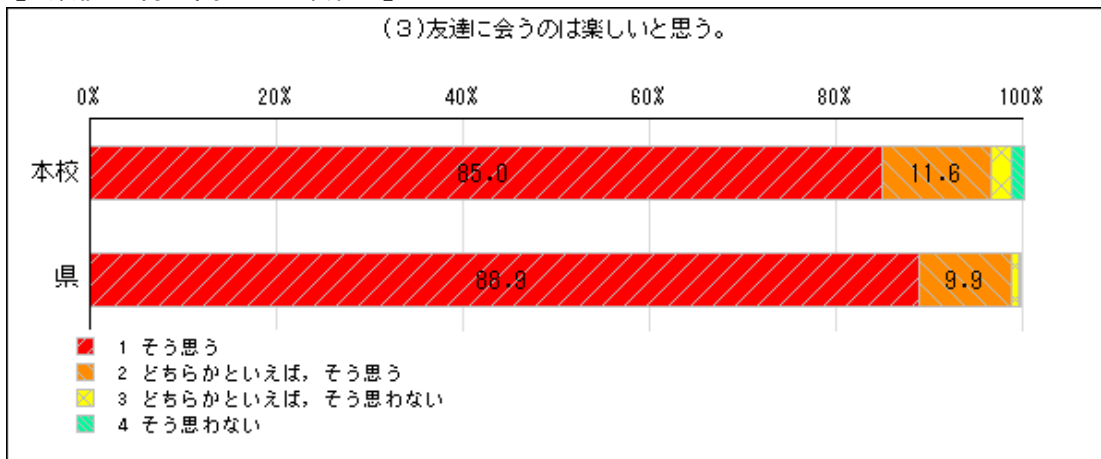
全体の概要	
国語	全体の正答率は、県平均をやや下回っている。観点別では、「話す・聞く」「書く」は県平均とほぼ同じ程度、「読む」「知識・理解・技能」は県平均を大きく下回っている。
分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
<p>聞く</p> <p>どの設問も県平均と同程度の正答率である。</p>	<p>場面や目的に応じた話す・聞くの力の育成を授業の中に取り入れ、生活の中に活用できるようにしていく。</p>
<p>書く</p> <p>リーフレットのタイトルを選んだ効果を考える設問は、県の正答率を特に下回っている。</p>	<p>表現の工夫や意図がわかるように、まとめたり要約したりする学習を取り入れる。</p>
<p>読む</p> <p>全体的に県平均より低い。特に、複数の条件を踏まえて指示通りにまとめる設問は、県平均を大きく下回っている。</p>	<p>読み取った内容を、さまざまな指示に従って書き分けるような学習を取り入れる。</p>
<p>知識・理解・技能</p> <p>漢字の読み書きの中で県を下回る設問がある。また、文節の働きの理解が弱い。</p>	<p>漢字の読み書きについては日常的に取りあげて理解を深める。また、文の成分の学習に力を入れる。</p>

## 今年度の分析

全体の概要	
数学	全体の正答率は県平均をやや下回っている。到達度分布を見てみると「要努力」の生徒の割合が多く、「十分達成」の生徒の割合が低くなっている。内容・領域別に比較をしたときは「図形」が県平均とほぼ同じである。また「量と測定」は県平均よりやや低くなっている。一方「数と計算」「数量関係」は県平均を大きく下回っている。
分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
<p>考え方</p> <p>県平均に比べて大きく下回っている。言葉や式を使って説明をする問題の正答率が低く、無解答率が高い。</p>	<p>授業中に考え方を発表する場面を設定する。また、定期テストでも記述式の問題を出題する。</p>
<p>技能</p> <p>県平均に比べてやや下回っている。グラフを読み取る問題の正答率が低い。</p>	<p>本校の取り組みのすきるアップテストの実施により、基本的計算能力の定着を図るとともに、課題や小テストを利用して多くの問題に取り組みさせる。</p>
<p>知識・理解</p> <p>県平均とほぼ同じである。1より小さい数で割ると数が大きくなるなどの定着ができていない。</p>	<p>授業の中で用語の確認を行い、数学的表現を使って説明することで定着を図る。</p>

## 全国・県学習状況調査における生徒意識調査の結果分析（1年）

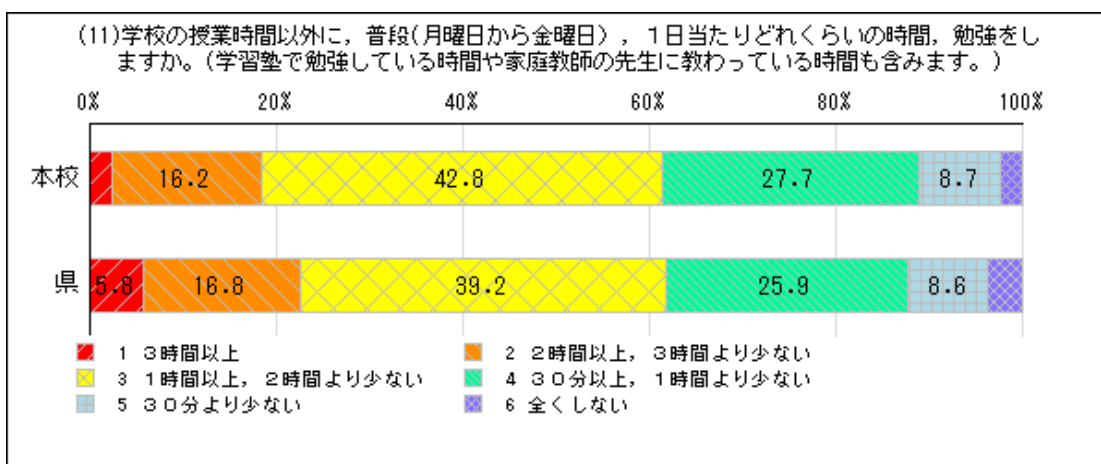
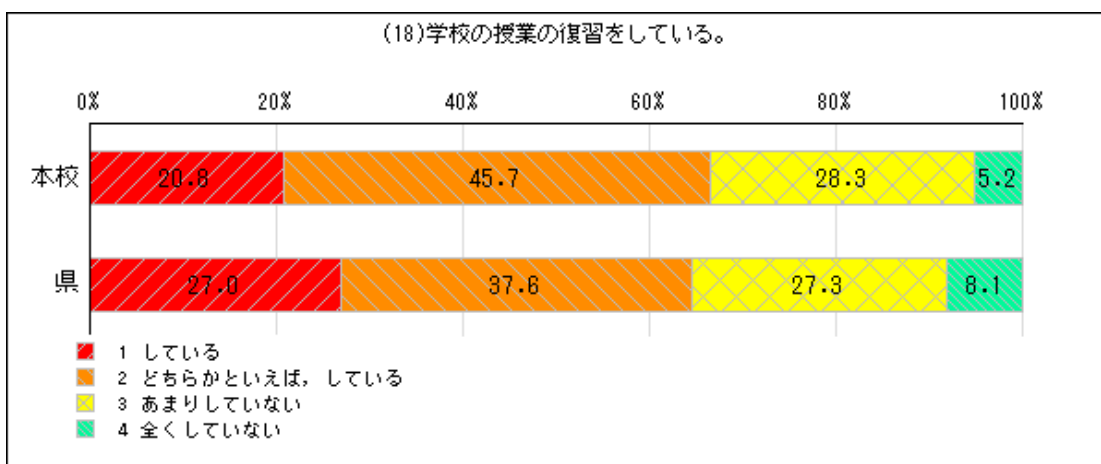
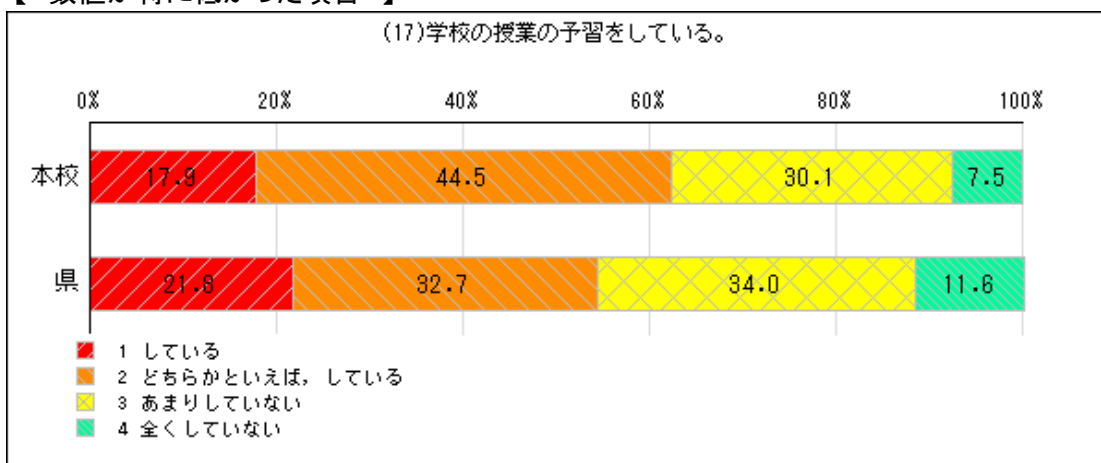
### 【 数値が特に高かった項目 】



### 分析と改善に向けた具体的取り組み事項

良好な人間関係や将来に向けての意識は高い。  
 学校からの与えられた課題に対して意欲的に取り組んでいるので、自主的な学習に発展させる目標を立てさせる。

【 数値が特に低かった項目 】



分析と改善に向けた具体的取り組み事項

自主的な学習が少ないので、進路や将来の目標を明確にさせ、学習意欲を高める必要がある。